

食よく、バランスよく。

「新・日本型食生活」をめざして



2017年3月期

決算説明会資料

(2016年4月1日～2017年3月31日)

2017年5月30日



フジッコ株式会社 (2908)

<http://www.fujicco.co.jp/>

2017年度スタートにあたって

代表取締役社長

福井 正一



研鑽を重ね

安心・安全のブランドづくりで

新たな発展の基盤を固めよう



ふじっ子大袋

2016年7月6日



おぼんざい小鉢

2016年11月10日



消費者志向自主宣言



当社は、生理機能、予防医学、伝統食文化などの研究をベースに、自然な素材を生かした安心・安全な高い品質の商品、サービスを提供することによって、お客様の健康増進をサポートする健康創造企業となることを目指します。

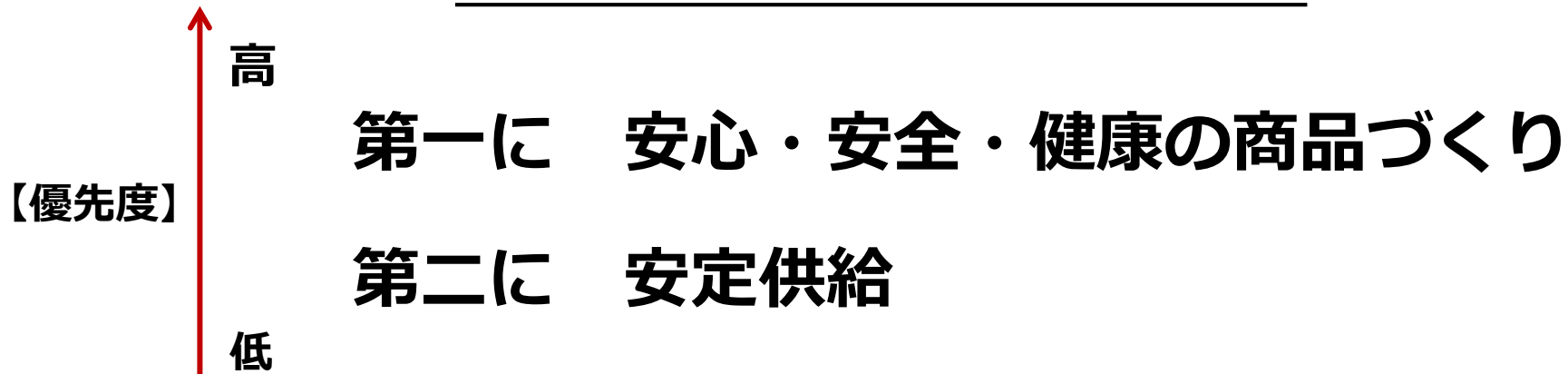
▶ [消費者志向自主宣言](#) 



消費者志向自主宣言

経営の基本を「お客様第一」に考え
「安心・安全・健康」の品質第一主義が
社会の持続的発展に貢献することを目指す

経営の判断基準の考え方



2016年
VOC（お客様の声）検索システム導入



赤ファイル（ご意見・ご提案）
黄ファイル（苦情）

2017年

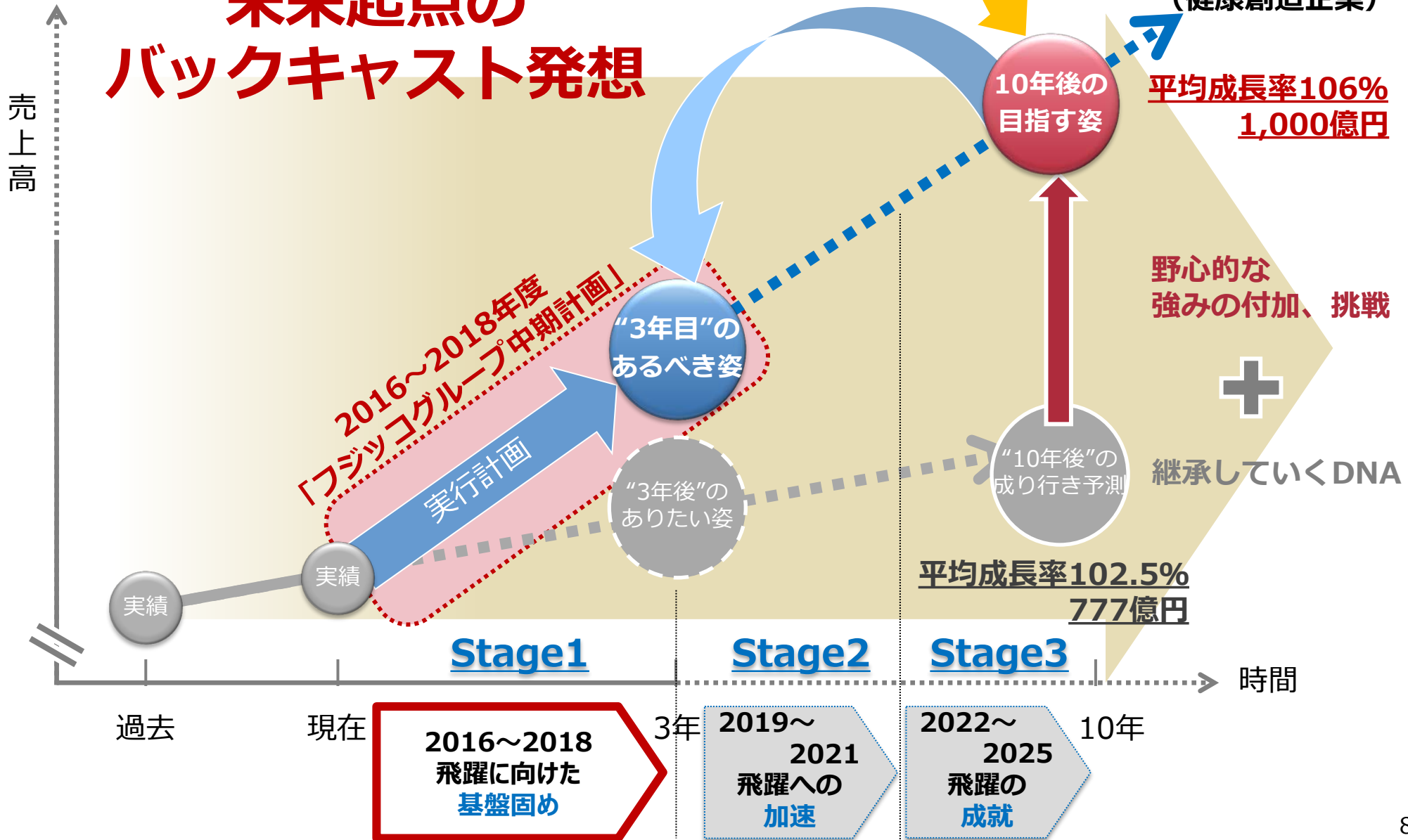
- ・ 「お客様の生の声」を実際の音声にて経営会議で共有
- ・ 「お客様の生の声」からの課題をお客様情報会議にて検討

新・中期経営計画スタート（2016～2018年度）



普遍的に目指す姿
（健康創造企業）

未来起点の バックキャスト発想





I.

連結売上高：700億円

II.

営業利益率：9%（営業利益63億円）

※ ROE：6.5～7.0%の水準を想定



“選択と集中”で高成長・高収益性の事業形成へ





1. 成長事業の持続的拡大

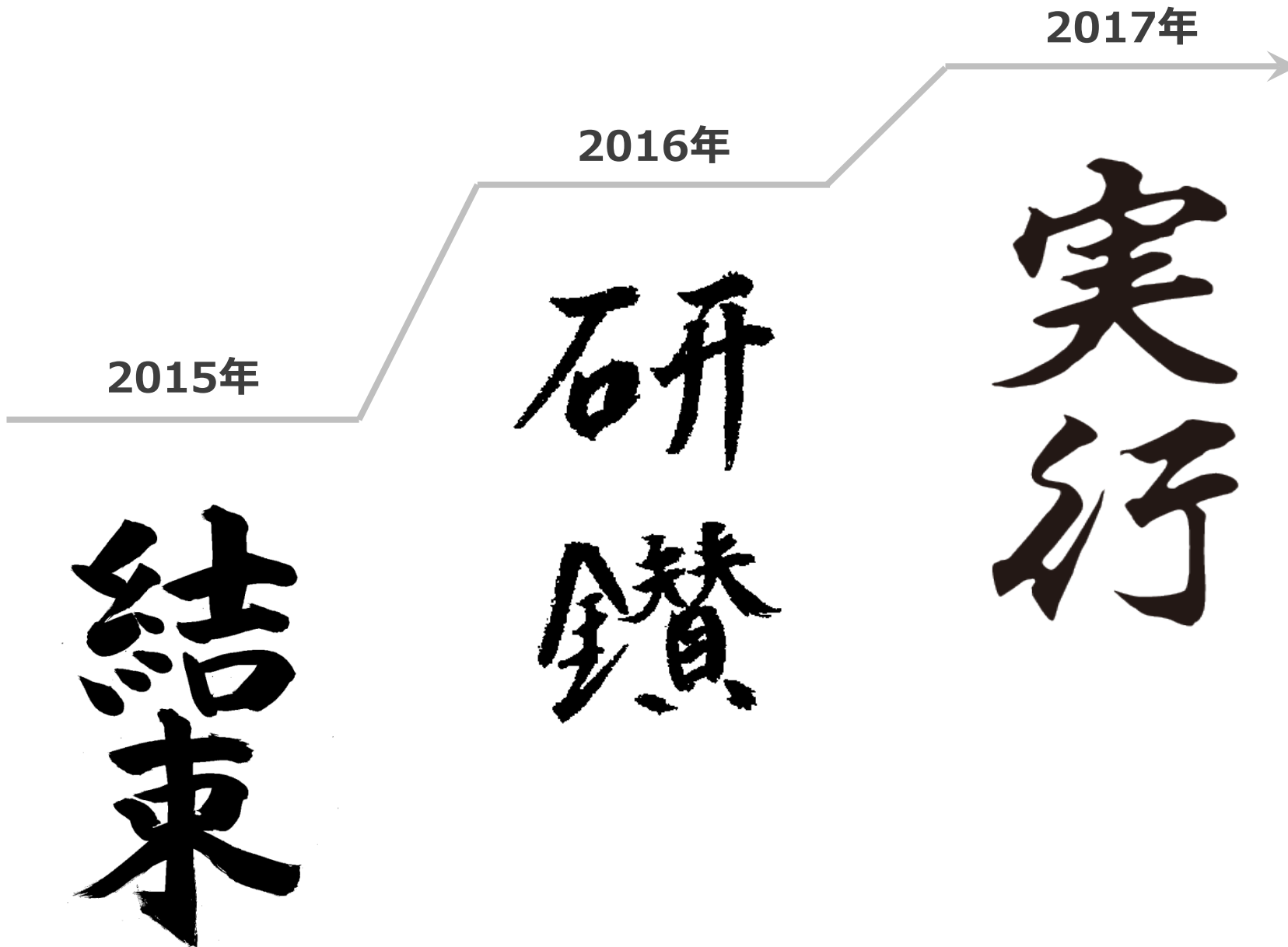
- ① ヨーグルト事業
- ② 日配惣菜
- ③ 通信販売

2. 少容量惣菜の拡大

- ① 豆小鉢
- ② おばんざい小鉢

3. コア事業の再成長

- ① 「ふじっ子煮」のブランド価値向上
- ② ドライ品群の専任販売体制





CUSTOMER FIRST!!

実行力を発揮し

安心・安全の徹底とともに

ブランド価値を高めよう

企業理念

健康創造企業

中期計画

持続的成長と
企業価値の最大化

時流適応

長時間労働からの脱却
(働き方改革)

ダイバーシティの推進

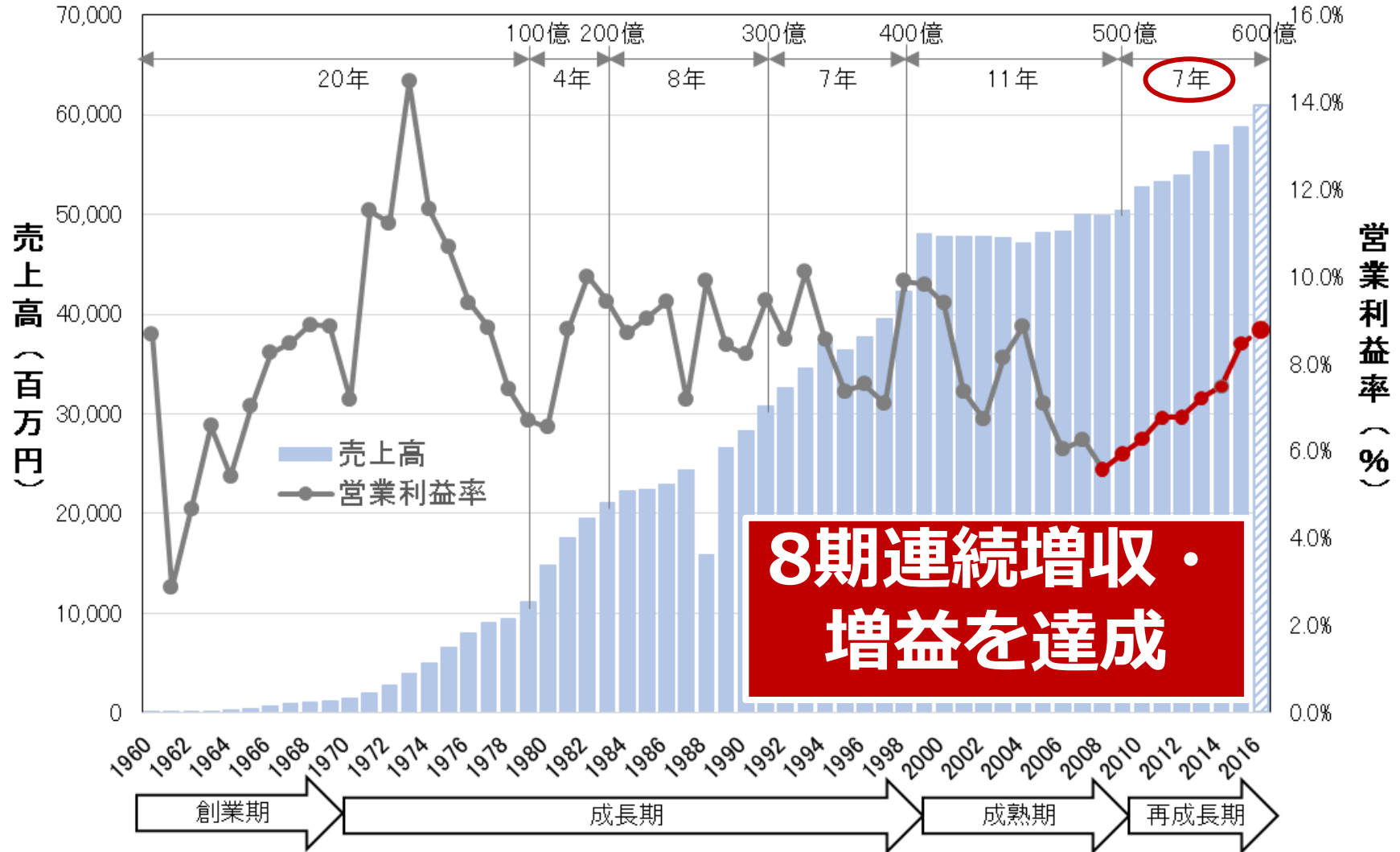
- ・ 長時間労働問題の取り組み
- ・ 女性活躍推進
- ・ 再雇用者のフル活用
- ・ 若手社員の積極登用

ワークライフバランスの向上

2016年度決算の概要



業績の推移



※ 1998年度まで単体, 1999年度から連結

連結損益計算書（前期比）



	2016/3期		2017/3期		増減額
	百万円	%	百万円	%	
売上高	58,718	100.0	60,860	100.0	2,142
売上原価	34,510	58.8	35,368	58.1	858
売上総利益	24,207	41.2	25,491	41.9	1,283
販売費及び一般管理費	19,234	32.8	20,139	33.1	905
営業利益	4,973	8.5	5,352	8.8	378
営業外損益	404	0.7	351	0.6	△52
経常利益	5,377	9.2	5,703	9.4	326
特別損益	361	0.6	△186	△0.3	△548
税引前利益	5,739	9.8	5,516	9.1	△222
当期純利益*	3,920	6.7	3,791	6.2	△128
1株当り当期純利益 [潜在株式調整後]	130円45銭 [-]		126円92銭 [126円82銭]		△3円53銭 [-]

* 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益になります。

売上高は増収、600億円を突破 営業利益、経常利益は過去最高益を更新（売上原価率の改善） 当期純利益*は減益（前期計上の投資有価証券売却益の影響）

- ◎ 売上高は2,142百万円の増収
- ◎ 売上原価率は58.1%、前期より0.7ポイントの改善
- ◎ 販管費率は33.1%、前期より0.3ポイントの悪化
- ◎ その結果、営業利益は378百万円の増益、
営業利益率は8.8%と前期より0.3ポイントの改善
- ◎ 経常利益は326百万円の増益
- ◎ 当期純利益*は△128百万円の減益
前期に投資有価証券の売却益356百万円を特別利益として計上した影響が大きいため
- ◎ 1株当り当期純利益は126円92銭、前期より3円53銭の減少
潜在株式調整後1株当り当期純利益は126円82銭

* 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益になります。

四半期会計期間の売上・営業利益の増減推移（前期比）

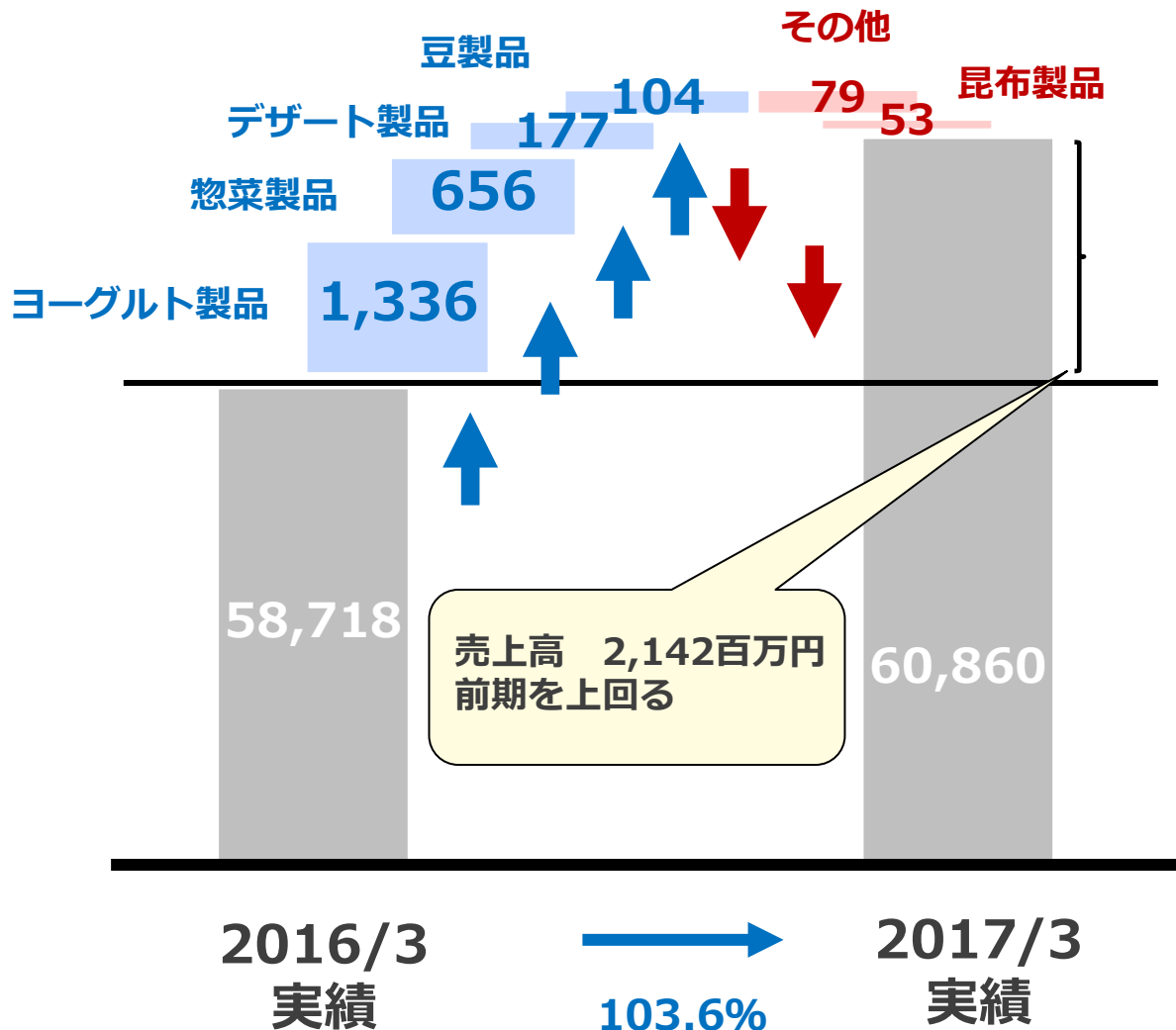


(単位：百万円)		売上	営業利益	営業利益率
第1 Q (4 - 6月)	前第1 Q	14,114	1,000	7.1%
	実績	14,586	1,059	7.3%
	増減	+471	+58	-
	前同四半期比	103.3%	105.9%	-
第2 Q (7 - 9月)	前第2 Q	14,478	1,382	9.6%
	実績	14,689	1,353	9.2%
	増減	+210	△29	-
	前同四半期比	101.5%	97.9%	-
第3 Q (10 - 12月)	前第3 Q	16,678	1,801	10.8%
	実績	17,573	2,152	12.2%
	増減	+894	+350	-
	前同四半期比	105.4%	119.5%	-
第4 Q (1 - 3月)	前第4 Q	13,446	788	5.9%
	実績	14,010	786	5.6%
	増減	+564	△1	-
	前同四半期比	104.2%	99.8%	-

売上高の増減要因分析（前期比）



単位：百万円



【総括】

ヨーグルト製品は大きく伸長

惣菜製品、デザート製品、豆製品も継続して伸長

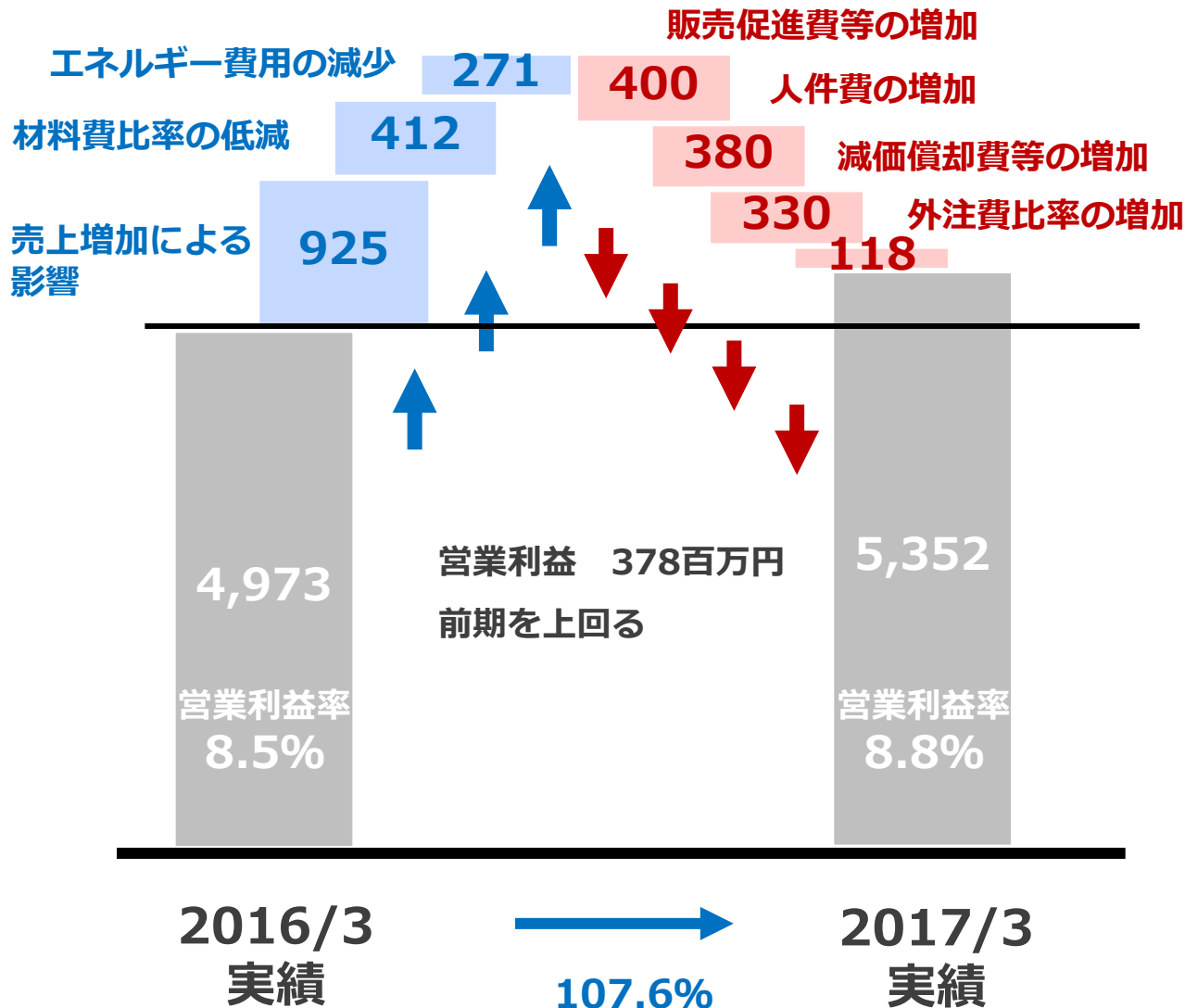
昆布製品はわずかに前年割れ

売上高は前期より2,142百万円上回った

営業利益の増減要因分析（前期比）



単位：百万円



【総括】

売上高の増加に加え、材料費比率の低減等による売上原価率の改善が進み、営業利益は前期を上回った

【増加要因に対するコメント】

- ・売上高は、主にヨーグルト製品、惣菜製品の伸長により増加
- ・材料費比率の低減は、主に惣菜製品の貢献度が大きかった

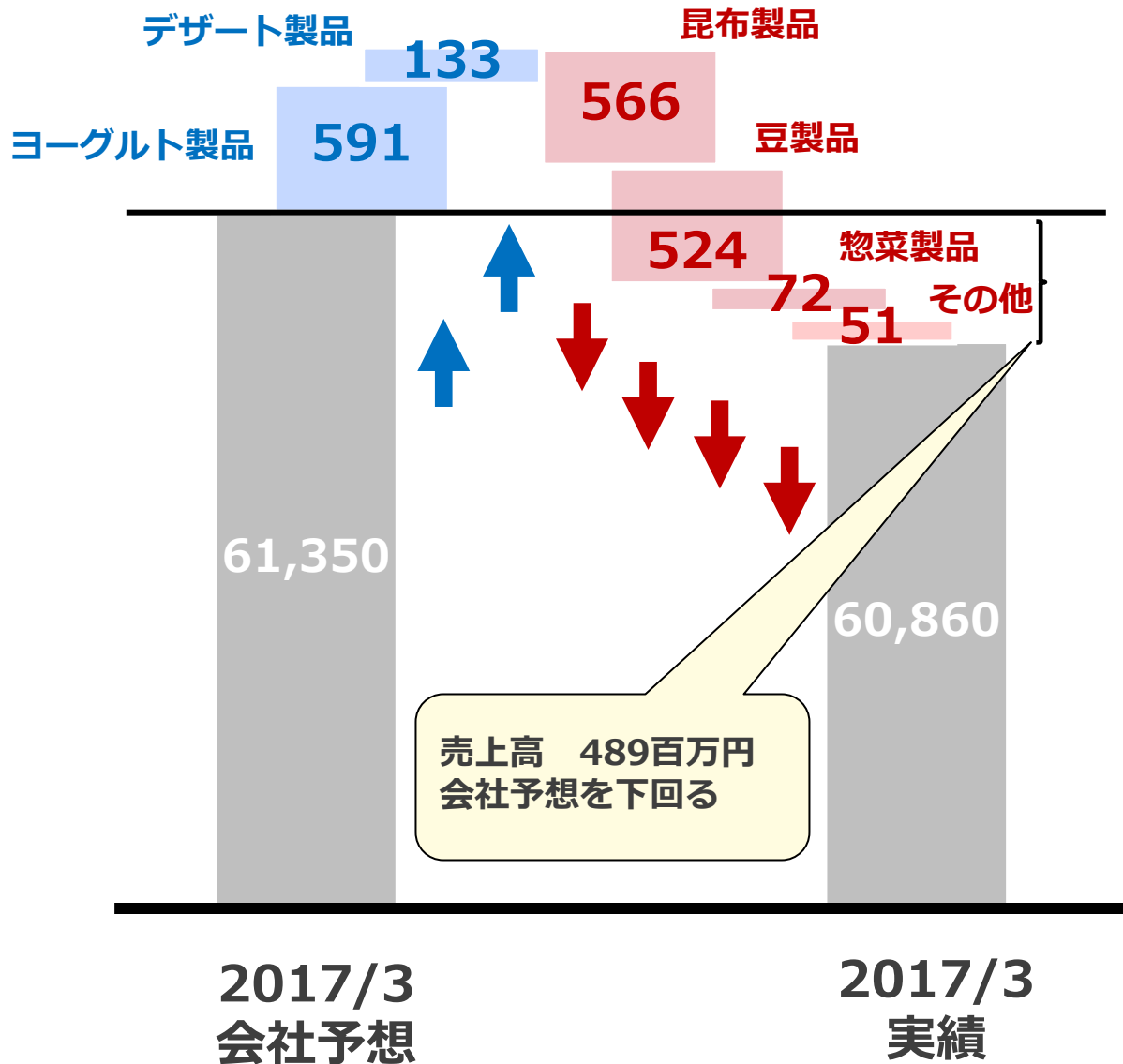
【減少要因に対するコメント】

- ・販売促進費等の増加
- ・人件費の増加
- ・減価償却費等の増加

売上高の増減要因分析（会社予想との比較）



単位：百万円



【総括】

ヨーグルト製品は会社予想を上回った

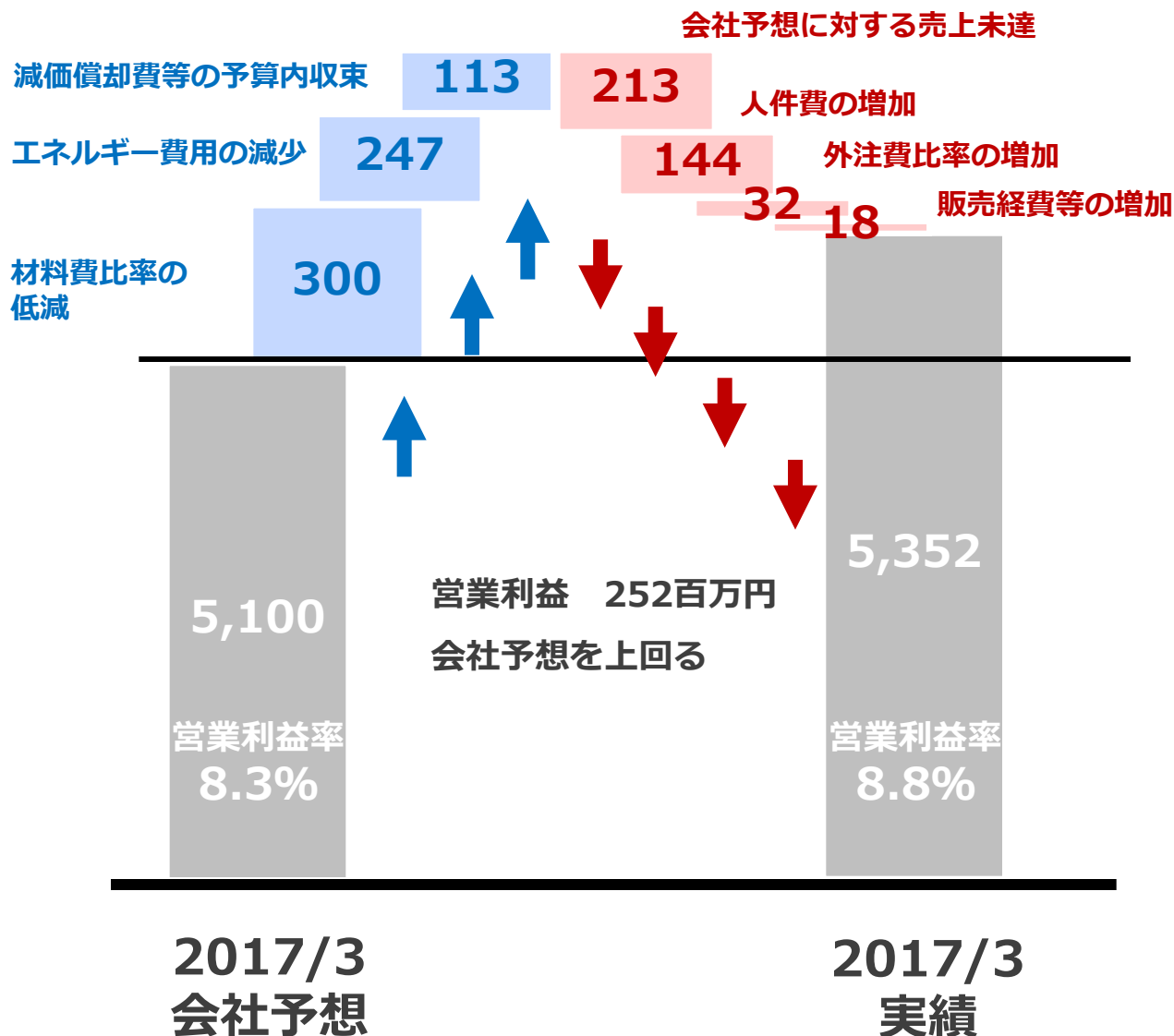
コア事業の昆布製品、豆製品が会社予想を下回った

売上高は会社予想より489百万円下回った

営業利益の増減要因分析（会社予想との比較）



単位：百万円



【総括】

売上高は会社予想に届かなかったものの、材料費比率の低減、エネルギー費用の減少等による売上原価率の改善が進み、営業利益は会社予想を上回った

【増加要因に対するコメント】

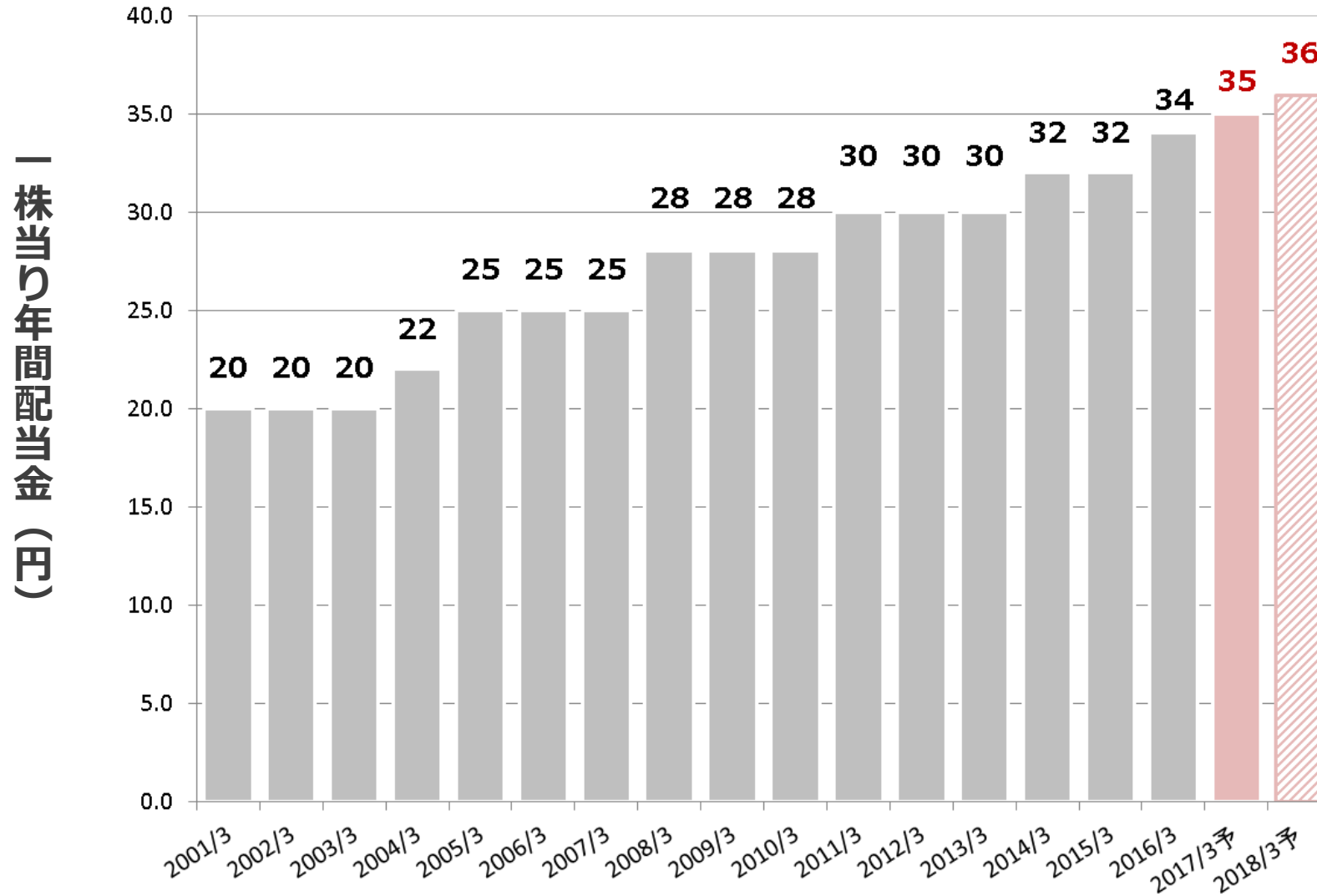
- ・ 材料費比率の低減は、主に惣菜製品の貢献度が大きかった
- ・ ガス代等のエネルギー費用の減少

【減少要因に対するコメント】

- ・ 会社予想に対する売上高未達成
- ・ 人件費の増加



安定配当を継続



よかった点

- ◎ 営業利益、経常利益は過去最高益を更新
- ◎ 「カスピ海ヨーグルト」の復活
- ◎ 売上原価率の改善
- ◎ デリカ事業の持続的成長
- ◎ 通信販売事業の躍進
- △ 売上高は増収、600億円の突破

悪かった点

- ◎ 製品事故
社告を伴うリコール2件（ふじっ子大袋、おばんざい小鉢）
- ◎ 洋風デリカ（ベスタデリ・朝のたべるスープ）の育成不足

2017年度業績の見通し

専務取締役
経営管理本部長

奥平 武則



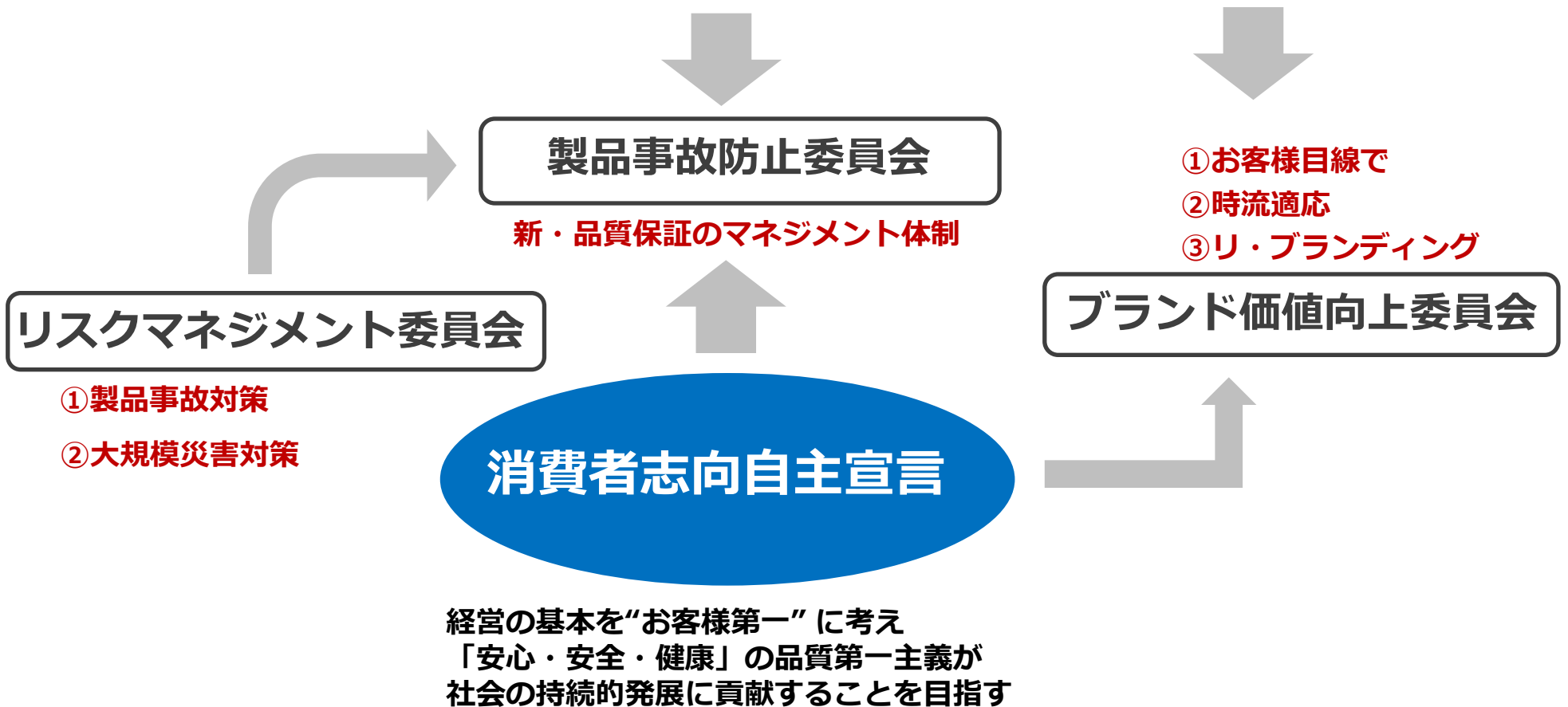
CUSTOMER FIRST!!

実行力を発揮し

安心・安全の徹底とともに

ブランド価値を高めよう

実行力を発揮し 安心・安全の徹底とともに ブランド価値を高めよう





未来起点の
バックキャスト発想

中計2年目

フジッコの持続的成長

リ・ポジショニング

1人当たり生産性向上

PLC
マネジメント

顧客志向

機能的価値
情緒的価値

発信力

ブランド
価値向上

安心
安全
健康

効率経営
の追求

PPM58

FCR58

働き方改革

消費者志向自主宣言

時流適応

カスピ海ヨーグルト事業の拡大



商品の広がり

2002年



通信販売



百貨店



量販店

チャネルの広がり



和田山工場新工場棟
2017年10月完工予定

次世代新商品の開発 ふりかけボトルタイプ





全国エリア供給拡大へ





FCR58テーマ

時間当たりの仕事の効率を高める

FCR-1

コスト削減活動

時間とコストを
両立した体質へ

【KPI管理の徹底】

- 1.生産部門のコストダウン
- 2.販売経費の総枠管理
- 3.物流費の低減
- 4.事業部の収支改善
- 5.本社部門コストの削減

FCR-2

創造的業務革新活動

CFT活動

収益確保の最大化と最短距離を導く体制づくり

【事業成長3大プロジェクト】

- 1.ヨーグルト事業拡大PJ
- 2.ドライ製品シェアアップPJ
- 3.おかずPJ

【事業基盤固めの取り組み】

- 1.収益改善の横断的取り組み
- 2.資材購買戦略の取り組み

利益創出概念図

コスト低減額の変動
考慮してのコスト
低減が必要

①原価率 ②総販売費
③本社費 ④収支改善

FCR58

①負け犬対策等
②3大プロジェクト
③成長事業の拡大

PPM58

販売増による影響

合計利益創出額
12.7億円

営業利益

法人税等

17.5億円

株主還元

(配当金) 11.0億円

内部留保

設備投資
M & A
海外事業

広告・販促費

減価償却費

研究開発費

業績連動型報酬

その他

主要経費

+11.7億円

54.5億円

+1.0億円

53.5億円
(前期利益)

12.7億円

前期より積増し
必要額

連結製品分類別売上高



(単位：百万円)	2017/3 実績	構成比 %	2018/3 予想	構成比 %	前期差	設定率
惣菜製品	18,920	31.1	20,223	31.8	1,303	106.9%
昆布製品	17,516	28.8	17,694	27.8	178	101.0%
豆製品	13,702	22.5	14,385	22.6	683	105.0%
ヨーグルト製品	6,216	10.2	6,858	10.8	642	110.3%
デザート製品	3,177	5.2	3,163	5.0	△13	99.6%
その他製品	1,328	2.2	1,274	2.0	△54	95.9%
合計	60,860	100.0	63,600	100.0	2,739	104.5%

取り組み方針

- 惣菜製品 : 日配惣菜の持続的成長、包装惣菜「おばんざい小鉢」の販売拡大
- 昆布製品 : 専属販売組織の新設等によるドライ品群の立直し
- 豆製品 : 煮豆「豆小鉢」の継続伸長、蒸し豆のシェアアップ
- ヨーグルト製品 : 「カスピ海ヨーグルト」のブランド価値向上
- デザート製品 : 発売15周年プロモーション

連結業績予想



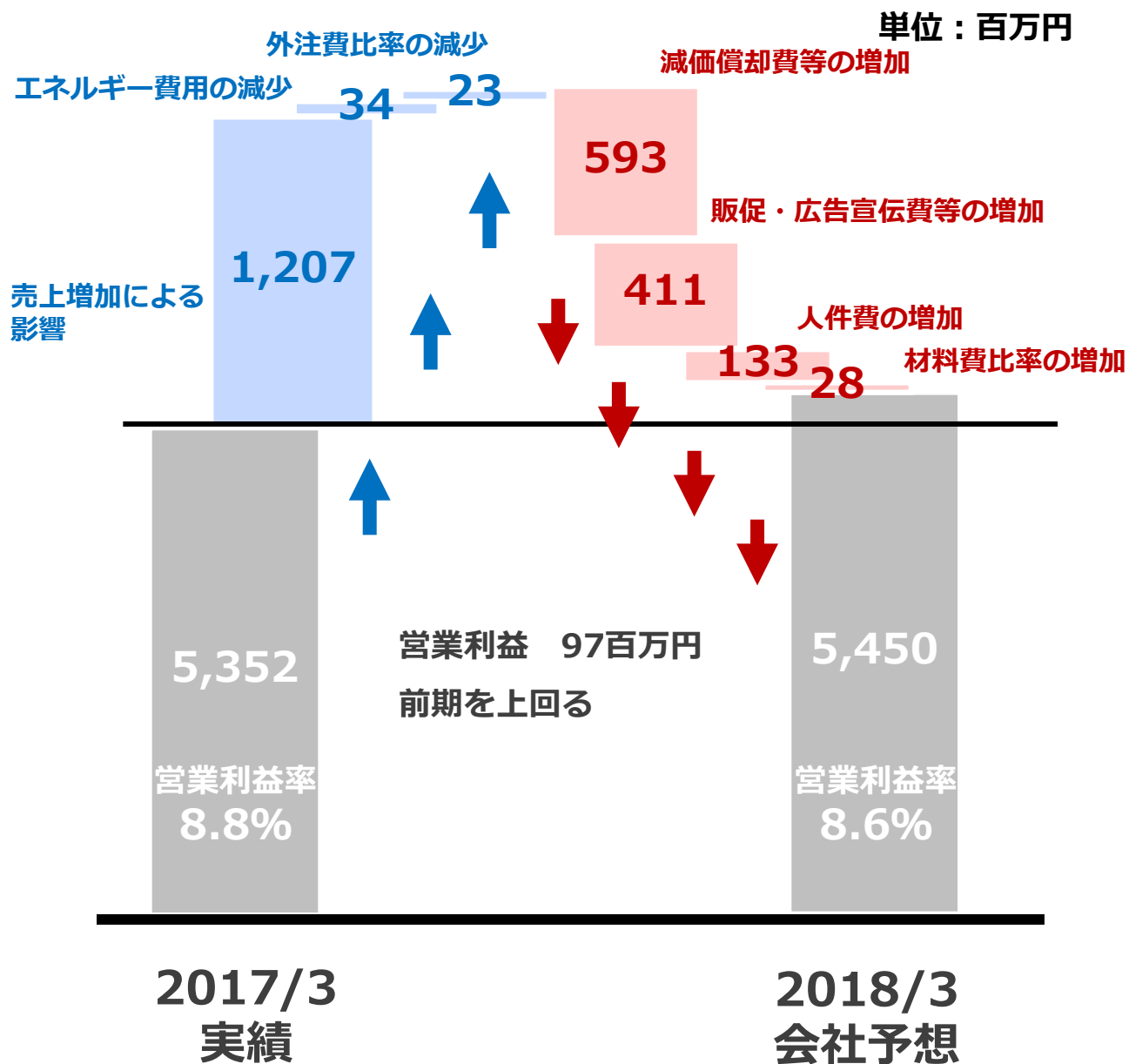
	2017/3期		2018/3期予想		増減額
	百万円	%	百万円	%	
売上高	60,860	100.0	63,600	100.0	2,739
売上原価	35,368	58.1	37,140	58.4	1,771
売上総利益	25,491	41.9	26,460	41.6	968
販売費及び一般管理費	20,139	33.1	21,010	33.0	870
営業利益	5,352	8.8	5,450	8.6	97
営業外損益	351	0.6	300	0.5	△51
経常利益	5,703	9.4	5,750	9.0	46
特別損益	△186	△0.3	-	-	186
税引前利益	5,516	9.1	5,750	9.0	233
当期純利益*	3,791	6.2	4,000	6.3	208
1株当り当期純利益	126円92銭		133円85銭		6円93銭

1株当り配当金	35円** (中間17円)	36円 (中間18円)	1円
---------	---------------	-------------	----

* 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益になります。

** 年間配当金35円のうち、期末配当金18円は予想。

営業利益の増減要因分析（前期比）



【ポイント】

- ① 予想どおりの増収
- ② コストダウン活動の強化
 - ・ FCR-1の推進
- ③ 販管費率の改善
 - ・ 販売経費の総枠管理
 - ・ 物流費の低減

設備投資額の推移

(百万円)	2013/3	2014/3	2015/3	2016/3	2017/3	2018/3 計画
設備投資額	6,996	2,767	2,592	2,278	3,513	9,000

2018/3期 設備投資計画

単位：百万円

投資区分	計画金額
成長投資	2,000
合理化投資	2,850
更新投資	4,150
合計	9,000



この資料には、当社の現在の業績見通しなどが含まれております。それら将来の予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの予想などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

～ お問い合わせ先 ～

経営企画部	尾西まで
TEL	078-303-5921
FAX	078-303-5949